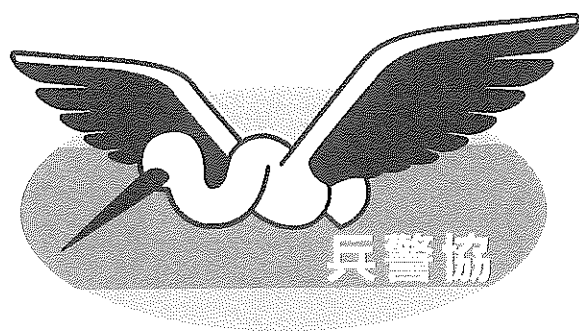


事前講習資料

交通誘導 1 級 実技編

(業務管理と資機材配置要領は事前講習実技当日に配布します)

転載・複製・転売等の二次利用禁止



(一社)兵庫県警備業協会

交互通行による交通誘導要領

訓練内容 交互通行規制中の道路における交通誘導

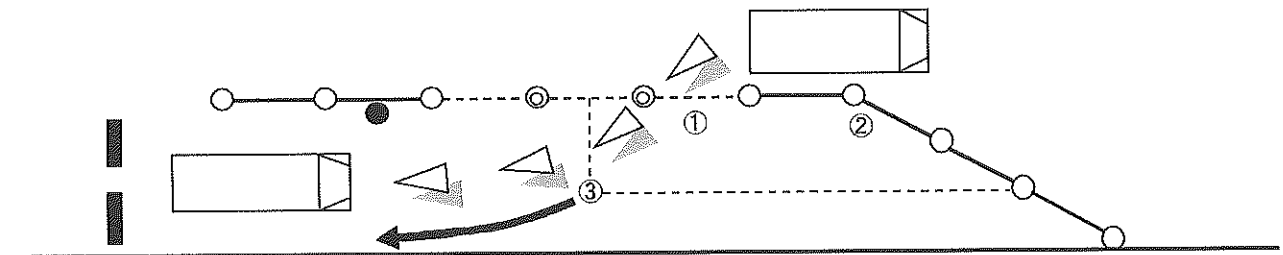
- ①工事車両を規制内に誘導する。(実際の車両を後進誘導)
- ②【想定】東側から緊急車両が接近したので、一般車両を停止させる。
- ※ 警備員 A は受講生、警備員 B～D は講師。

1. 警備員 A の受講生 (以下、警備員 A) はトランシーバを装着し、所定位置①につく。

講師の号令「～を実施する。始め。」

〔警備員 A〕:「実施します」

足元にある赤色灯を左手で取り上げ、左右を警戒する。



2. 工事車両の到着を確認した警備員 C と、トランシーバで次の連絡 (通話) を行う。通話中も左右の警戒 (確認) を継続する。

〔警備員 C〕:「C から A へ。」(講師)

〔警備員 A〕:「A です、どうぞ。」

〔警備員 C〕:「工事車両到着、どうぞ。」(講師)

〔警備員 A〕:「工事車両到着の件、了解。後続車両を停止せよ、どうぞ。」

〔警備員 C〕:「了解。後続車両の停止完了。以上、C。」(講師)

3. 左向けを行い、駆け足で②のセフティコーン 2 本を重ねて撤去し、●の位置に置き、続いて 180 度方向変換を行い、駆け足で②の位置 (停止中の工事車両の運転席横) へ行き、左向け左を行って正対した後、「後進誘導を行います。」と申告する。
4. 駆け足で③ (工事車両の右斜め後方約 5 メートル) の位置まで移動し、工事車両と平行に向き、警笛をくわえ、赤色灯を右手に持ち替え、左方の安全確認を行った後、左腕を肩の高さに水平に上げて手のひらを正面に向け進行方向を示すようにし、続いて工事車両を注視し、赤色灯を右肩の高さに水平に上げ後進誘導を行う。
5. 後進誘導中は、右前腕のみで半円を描くように顔の前面 (概ね鼻の位置程度) まで振り、戻すときは逆の動作で右肩水平の位置まで戻す。また、2 回の誘導動作に 1 回以上は顔を左右に向けて安全確認を行い、両足は転倒しないように自然に歩行する。また、警笛は右前腕の振り (引き寄せるとき) に合わせて「ピーピー」と吹鳴する。

7. ①の位置で道路に平行となり、赤色灯を左手に持ち替えて左右の警戒を行いながら警備員C、警備員B、警備員Dとトランシーバで次の連絡（通話）を行う。

〔警備員A〕：「以上、A。」

- 〔警備員A〕：「停止完了の件、了解。以上、A。」

-

〔警備員D〕：「Dです、どうぞ。」（講師）

〔警備員A〕：「東側から緊急車両が通行する。西側から強引に発進した車両に停止を促せ、どうぞ。」

〔警備員D〕：「西側から強引に発進した車両に停止を促す件、了解。」（講師）

〔警備員A〕：「以上、A。」

〔警備員D〕：「DからAへ。」（講師）

〔警備員A〕：「Aです、どうぞ。」

〔警備員D〕：「西側から強引に発進した車両は規制帯手前で停止完了。緊急車両通行可能、どうぞ。」（講師）

〔警備員A〕：「西側から強引に発進した車両は規制帯手前で停止完了。緊急車両通行可能の件、了解。」

〔警備員D〕：「以上、D。」（講師）

1 0. 東側（警備員B側）から接近中の緊急車両が間近に接近したと想定

〔警備員B〕：「至急、至急、BからAへ。」（講師）

〔警備員A〕：「Aです、どうぞ。」

〔警備員B〕：「緊急車両が接近。対処の指示願いたい、どうぞ。」（講師）

〔警備員A〕：「全車停止中。緊急車両のみ通行させよ、どうぞ。」

〔警備員B〕：「緊急車両のみ通行させる件、了解。以上、B」（講師）

1 1. 緊急車両が規制帯（警備員C横）を通過したと想定

〔警備員C〕：「CからAへ。」（講師）

〔警備員A〕：「Aです、どうぞ。」

〔警備員C〕：「緊急車両通過、どうぞ。」（講師）

〔警備員A〕：「緊急車両通過の件、了解。Bと連携して交互通行を開始せよ、どうぞ。」

〔警備員C〕：「Bと連携して交互通行開始の件、了解。以上、C。」（講師）

1 2. 基本の姿勢となり、左足元に赤色灯を置き、講師に正対して「終了しました。」と申告する。

号令：「やめ。」

交互通行による交通誘導要領【文言】

文言は一字一句正確に覚えて下さい。(みなさんは警備員A役です。)

※がある文言は口頭で、無印はトランシーバでの通信です。

(講師に対して)

警備員A : ※「実施します。」※

(トランシーバーで)

警備員C : 「CからAへ。」

警備員A : 「Aです、どうぞ。」

警備員C : 「工事車両到着、どうぞ。」

警備員A : 「工事車両到着の件、了解。後続車両を停止せよ、どうぞ。」

警備員C : 「了解。後続車両の停止完了。以上、C。」

(運転手に対して)

警備員A : ※「後進誘導を行います。」※

(トランシーバーで)

警備員A : 「AからCへ。」

警備員C : 「Cです、どうぞ。」

警備員A : 「工事車両入場完了。Bと連携して交互通行を開始せよ、どうぞ。」

警備員C : 「Bと連携して交互通行開始の件、了解。」

警備員A : 「以上、A。」

警備員B : 「至急、至急、BからAへ。」

警備員A : 「Aです、どうぞ。」

警備員B : 「後方から緊急車両が接近中。東側一般車両3台停止状態、どうぞ。」

警備員A : 「緊急車両接近中の件、了解。一般車両の停止を継続せよ、どうぞ。」

警備員B : 「一般車両の停止継続の件、了解。以上、B」

警備員A : 「至急、至急、AからCへ。」

警備員C : 「Cです、どうぞ。」

警備員A : 「東側から緊急車両が接近中。西側の車両を停止せよ、どうぞ。」

警備員C : 「緊急車両接近中の件、了解。こちら停止完了、どうぞ。」

警備員A : 「停止完了の件、了解。以上、A。」

警備員C : 「至急、至急、CからAへ。」
警備員A : 「Aです、どうぞ。」
警備員C : 「停止中の1台が強引に発進した、どうぞ。」
警備員A : 「停止中の1台が強引に発進した件、了解。」
警備員C : 「以上、C。」

警備員A : 「至急、至急、AからDへ。」
警備員D : 「Dです、どうぞ。」
警備員A : 「東側から緊急車両が通行する。西側から強引に発進した車両に停止を促せ、どうぞ。」
警備員D : 「西側から強引に発進した車両に停止を促す件、了解。」
警備員A : 「以上、A。」
警備員D : 「DからAへ。」
警備員A : 「Aです、どうぞ。」
警備員D : 「西側から強引に発進した車両は規制帯手前で停止完了。緊急車両通行可能、どうぞ。」
警備員A : 「西側から強引に発進した車両は規制帯手前で停止完了。緊急車両通行可能の件、了解。」
警備員D : 「以上、D。」

警備員B : 「至急、至急、BからAへ。」
警備員A : 「Aです、どうぞ。」
警備員B : 「緊急車両が接近。対処の指示願いたい、どうぞ。」
警備員A : 「全車停止中。緊急車両のみ通行させよ、どうぞ。」
警備員B : 「緊急車両のみ通行させる件、了解。以上、B」

警備員C : 「CからAへ。」
警備員A : 「Aです、どうぞ。」
警備員C : 「緊急車両通過、どうぞ。」
警備員A : 「緊急車両通過の件、了解。Bと連携して交互通行を開始せよ、どうぞ。」
警備員C : 「Bと連携して交互通行開始の件、了解。以上C」
(講師に対して)
警備員A : ※「終了しました。」※

拡声器による誘導要領

訓練内容

「車両及び歩行者に対する迂回の広報」

「歩行者に対する避難誘導の広報」

【想定文】

- * 幹線道路において、車線規制による交通誘導警備業務を実施していた
 - * 工事帯規制区間内で大型トラックが追突した
 - * 一般通行車両は、通行不可能である
 - * 歩行者も通行不可能である
 - * 警察及び消防には連絡済みである
 - * 警察からの指示で、約50m手前の交差点付近で通行車両等を左右の道路へ迂回させる
 - * 数分後、現場から油の流出確認の連絡が入る
 - * 爆発炎上の可能性があり、付近はたいへん危険である。
 - * 大型トラックの運転手は、自力で脱出し無事である
-

【広報例】

①迂回の広報

ご通行中の皆さまにお知らせします、この先で大型トラックが追突する事故が発生したため、これから先は、警察の指示によって通行が禁止されています。左右の道路へ迂回をお願いします。

※2回繰り返す

②避難の広報

ご通行中の皆さまにお知らせします、この先で追突した大型トラックから油が流出しています。爆発炎上する危険がありますので、付近の皆さまはこの場から避難して下さい。

※2回繰り返す

護身術（徒手の応用）

号令：「只今から徒手の護身術（応用）の模範演技を実施する。」

（1）前突き（逆突き）

ア 「前突き、用意。」の号令で、正面の構えとなり、左手はこぶしの甲を上にして前方に水平に上げ、右手はひじを曲げ、手のひらを上に向けてこぶしを作り、体側に沿って十分後ろに引いて構える。

イ 「始め。」の号令で、左足を1歩前に踏み出し、左こぶしを外旋しながら体側に強く引き付けると同時に、右こぶしを内旋しながら上体を崩すことなく腰を入れ、身体全体を利用して強く相手の水月を突く。

ウ 「やめ。」の号令で、元の位置に戻る。



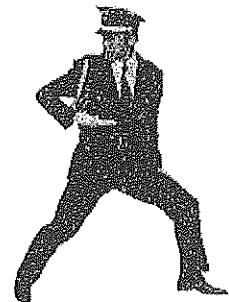
前突き

（2）ひじ当て

ア 「ひじ当て、用意。」の号令で、正面の構えとなる。

イ 「始め。」の号令で、右手を左乳の前に上げ、右足を1歩後ろに引くと同時に、直ちに右手を外旋しながら、ひじで後方の相手の水月を突く。

ウ 「やめ。」の号令で、元の位置に戻る。



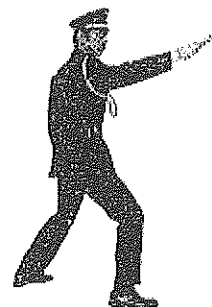
ひじ当て

（3）手刀

ア 「手刀、用意。」の号令で、正面の構えとなり、両手の四指を伸ばし、親指を曲げてその内側を人さし指の根元に付けて手刀を作る。

イ 「始め。」の号令で、右手を左乳の前に上げ、直ちに頭を右に向けながら右足を斜め前に踏み出し、右手を伸ばしながら右方に横一直線に振り、たなごころの小指側の部分で相手の右霞を打つ。

ウ 「やめ。」の号令で、元の位置に戻る。



手刀

(4) ひざ当て

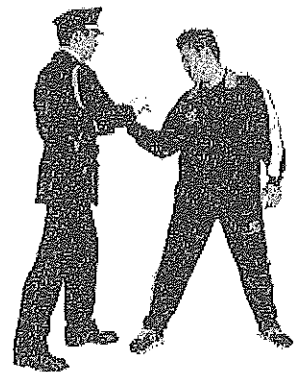
- ア 「ひざ当て、用意。」の号令で、正面の構えとなり、正面にいる相手の両肩に手を掛けることを想定し、両手を前に上げる。
- イ 「始め。」の号令で、両手を前下に強く引き付け、左足を1歩前に踏み出し、左のかかとをこころもち上げながら、右ひざ頭を相手の胴（金的）に当てる。
- ウ 「やめ。」の号令で、元の位置に戻る。



ひざ当て

(5) 小手返し

- ア 「小手返し、用意。」の号令で、ともに約1メートルの間合いに進み寄り、正面の構えとなって向かい合う。
- イ 「始め。」の号令で、相手が右手で警備員の右手首を順につかむ。警備員は、左足を踏み出しながら、右腕を素早く体側に十分引き付けると同時に、相手の右手の甲の薬指付け根に、自分の左手親指を手前にして当て、中指、薬指、小指を母子丘に当ててつかむ。
- ウ さらに、親指、中指、薬指に力を入れて強く締めながらひじを体側に付けてこれを外側に返し、相手の手首を45度外側にひねり、右手たなごころを開いて相手の手の甲に重ね、人さし指の付け根を制し、右足から相手の右足外側に体を進めると同時に相手を真下にきめ倒す。
- エ 「やめ。」の号令で、元の位置に戻る。



小手返し

警察機関等への追加連絡要領

訓練の流れ

①VTR で、事故発生の第一報までを見る。

※必要な事項はメモ（左側「第一報メモ」欄を使用）をとること

②続いて、状況想定文を読む。

※必要な事項はメモ（右側「追加連絡」欄を使用）をとること

③電話にて、警察機関等への追加連絡を行う。

① VTR

状況想定

- * 発生時刻は、15時20分である。
- * 発生場所は、国道2号線の農業会館前交差点で、元町駅の南側。
- * 交通事故発生。乗用車が軽自動車に追突した。
- * 私は、現場付近で交通誘導警備業務に従事している、〇〇警備（自分の所属会社の△△△△（自分の氏名）です。
- * 乗用車の運転手が、負傷者の救護と二次災害防止を行っている。
- * 救急車の要請が必要。
- * 軽自動車の乗員が負傷、頭部を強打して意識がはっきりしていない。

第一報

警察官役 : 「はい、警察です」

警備員役 : 「交通事故が発生しました。発生時刻は、15時20分、場所は、国道2号線の神戸駅前交差点で、神戸駅の南側。乗用車が軽自動車に追突、軽自動車の乗員1名が負傷、1名は頭部を強打して意識がはっきりせず、救急車の要請をお願いします。乗用車の運転手が、負傷者の救護と二次災害防止を行っています。私は、現場付近で交通誘導警備業務に従事している、〇〇警備会社（自分の所属会社）の△△△△（自分の氏名）です。」

警察官役 : 「はい、了解しました。」

② 追加連絡想定

想定文

- * 被害者に付き添っていた運転者が、車で大阪方面へ逃走した。
 - * 第一報後、被害者が頭痛を訴え、意識がなくなった。
 - * 運転者は、男性で40歳くらい、小太りで白いシャツを着ている。
 - * 逃走した車は、黒の乗用車で、ナンバーは12-23、右側のヘッドライトが壊れている。
 - * 逃走した車の助手席には、男性が乗っていた。
 - * あなたは、現場付近で交通誘導警備業務に従事している、〇〇警備（自分の所属会社）の〇〇（自分の氏名）である。
-

③ 電話連絡

連絡例

- 警察官：「はい、警察です」
- 警備員：「ゼッケン番号〇〇です。」
- 警察官：「何がありましたか？」
- 警備員：「15時20分に農業会館付近で発生した交通事故の追加連絡です。」
- 警察官：「どうしましたか？」
- 警備員：「被害者に付き添っていた運転者が、車で大阪方面へ逃走しました。逃走した車は、黒の乗用車、ナンバーは12-23、右側のヘッドライトが壊れており、助手席には男性が乗っていました。運転者は、男性で40歳くらい、小太りで白いシャツを着ていました。また、第一報後に被害者が頭痛を訴え、意識がなくなりました。第一報で現場の目標物を神戸駅南と連絡しましたが、元町駅南の誤りでしたので訂正します。」
- 警察官：「あなたはどなたですか？」
- 警備員：「私は、現場付近で交通誘導警備業務に従事している、〇〇警備（自分の所属会社）の〇〇（自分の氏名）です」
- 警察官：「了解しました。」